



八ヶ岳

今年のアイスクライミングもはじまりました！

裏同心ルンゼ、ジョウゴ沢

吉澤

八ヶ岳には先週も来た。大好きだな～八ヶ岳。シーズン中に10回以上訪ねたら何か無料にならないかな？ 赤岳鉱泉の宿泊券プレゼントとか。あのステーキが食べてみたいんです。ダメでしょうか？ さて、今回は行者小屋にテントを張ってバリエーションルートに登りましたが、今回は赤岳鉱泉に幕営して凍った滝を登るアイスクライミングです！

12月14日(土) 晴れてたのに曇りました

先週と同じく、恐怖の絶叫へアピンカーブを機敏なハンドルとアクセルワークで突破すると、再び赤岳山荘の駐車場に到着した。ヨイショと声が漏れるほどの大荷物を背負って、今回は北沢をたどる。休憩を挟んで、赤岳鉱泉には約2時間で着。行者小屋より近い道もよく整備されていて歩きやすかった。

この赤岳鉱泉に泊まればポカポカの室内で熱々ジューシーなステーキをほおばれるのだけど、私達は山岳会員ですから、山小屋に泊まるなんて言語道断！幕営するのが王道です。でも、受付のために屋内に入ると優しい温もりで心が折

れそうになる。それなのに、サトリカさんと福永さんも「宿泊できるくらいのお金持ってきてるよ(笑)」なんて甘い声を出して煽ってくる。じゃあ仕方ないから今回だけ・・・なんて話にはなりません！ 気持ちをグッとこらえて外にテントを設営。とつと準備をして裏同心ルンゼへ向かった。

地球の温暖化の影響をもろに受けて、赤岳鉱泉のテント場には雪がかけらもなかった。そんなこともあり滝の氷結状態が気になっていたが、裏同心ルンゼのF1を下から見上げると問題なく登れるくらい凍っている。さすが人気ルートなだけあって、すでに数パーティーが取り付いていた。我々もすぐに準備して登攀開始。F1とF2を吉澤がリード。そして登りきってから2人を引き上げようとしたら、なんとここで予想外のアクシデントが発生！ 私の年季の入ったボロいロープが水分を含んでバキバキに凍り、滝と同化して動かなくなってしまったのだ。

福永さんにつながったロープは操作することができたが、もう一方のウンともスンともいわない針金ロープの先にいるサトリカさんは、ずっと下で待っている。1人残して登攀を続けるわけにもいかないので



ここで撤退。このとき待ちぼうけしていたサトリカさんは、身体を温めるために自称「トマダンス」を完成させたい。膝を畳むと同時に腕を曲げる。そして足を伸ばすとともに手の拳を空に向けて突き出す。これを斜め右斜め左に何度も繰り返す。この踊りのおかげでサトリカさんは心配する必要がないくらい元気だった。そんなこともあり、初日は行程の途中から懸垂下降を繰り返して、小さくて狭くて寒い我々の本日の宿に帰ったのでした。

ここからは副音声。サトリカさんと福永さんの感想です！

■サトリカさん

先週に引き続きハケ岳。アイスクャンディは少し氷化が進んで一部が利用可能になったが、例年に比べたらまだまだ小さい。

赤岳鉱泉でテントを張り、お昼過ぎに裏同心に向かったが、取付きにはまだ数パーティが準備をしていて、さらに後ろから他パーティもやってくる。すごい人気だ。1ピッチ目を吉澤君がリードし、私と福永さんはフォローで登る予定だったが私側のロープが途中で完全凍結してしまっただ。仕方なく二人が懸垂で降りてくるまでその場で待機。暖かいダウンジャケットを着こんだが、日が陰ると一気に寒さが増す。その場を無駄にウロウロし、発熱を促した。

どこかで事故があったらしく、県警のヘリが何度も岩壁に近寄ろうとしていたが風が強くてホイスト救助できる環境ではなかった。しばらくしてヘリは戻っていった。(後に、裏同心ルンゼで事故があり、地上から救助されたことが判明した)。

やがて二人も懸垂で降りてきて、寒さに震えながらテント場に戻る。赤岳鉱泉の極暖コタツ付個室がうらやましい。次は絶対小屋に泊まろう。

■福永さん

裏同心ルンゼしか凍っていないという情報からか、お昼過ぎのスタートでも何パーティも入っており混雑していた。関東のアイスクライマーが集結していると思えば、この賑わいも納得。アイスクライミング人気がかえって嬉しいくらい。

12月15日(日) 今日は青空晴天！

昨晩は赤岳鉱泉で購入したフルボットの赤ワインが美味しかったな～。お肉タップリの鍋をつつきながらグビグビ。気持ちよく朝を迎えました。

2日目はジョウゴ沢を詰めて硫黄岳付近の稜線まで抜ける予定。7時過ぎに出発して、F1は氷結状況がいまいちなので右岸から高巻いてパス。F2からロープをつないで登攀を開始した。本日最初のリードはサトリカさん。華麗に登って後続2人を引き上げてくれた。この後は河原歩



きになるので、吉澤がグルグル巻いたダブルロープを纏掛けにして先へ進む。

乙女の滝を下から見学できるポイントで一休み。再び歩きだすとすぐに二俣になり「直進するとジョウゴ沢大滝、左に曲がるとナイアガラの滝があるよ」と、すれ違った男性の4人パーティーに教えて頂いた。今回は稜線に近い左俣をチョイスして1つ目の滝をフリーで突破。すると続いて、幅が狭いナイアガラ(?)の滝が現れた。

ここはリードを福永さんをお願いする。傾斜のある右壁を見事に突破。我々も続いて登ると氷瀑の登攀はこれで終了。あとは稜線まで詰め上がるだけだが、これが最悪最低だった。雪がないルンゼは自然にはがれた石が頻繁にゴロゴロ落ちてくる危険地帯。石つぶての直撃を避けながらボロボロのザレを登って細い尾根に乗り上げたのは良かったのだが、今度は藪こぎが待ち受けていた。ガサゴソガサゴソ。まるで沢登りをしているよう。松の葉を身体中に刺して、やっとのことでスリした登山道へ抜け出せた。顔を上げれば北八ヶ岳の山々が見渡せる好展望。満点の達成感に浸りながら2日目の計画を達成することができたのでした。

では最後に2人の副音声をどうぞ！

■サトリカさん

1ピッチ目は私がリード。もしかしたら3年ぶりかもしれないリード…。優しいピッチでよかった。

アイスより、抜けた後のガレ場が怖い。暖かくて岩が全く凍っておらず上部からゴロゴロ転がってくる。私たちも落としたりイヤカン、そろーりそろりとザレを登る。その後はヤブとの戦いで、まるで沢登りの詰めのような。それでも快晴の稜線に出たときは気持ちよかった。

撤収中に隣のテントのおじさまから、10年も通っているがこの時期雪のないのは初めてと聞かされた。12月なのに砂まみれになったテントを担いで下山した。

■福永さん

翌日のジョウゴ沢は、一面雪景色だった数年前と比べると、ガレ場に水が流れ茶色い世界が広がっていた。それでもナイアガラの滝をリードし、藪をかき分け稜線に抜けたことがとても楽しかった。ナメ好き、藪好きの私にはルートで遊ぶのが合っていると感じた瞬間だった。



DATA

山行日

2019年12月14日(土)～15日(日)

行程

12/14 赤岳山荘～赤岳鉱泉～裏同心ルンゼ途中まで～赤岳鉱泉(泊)

12/15 C1～ジョウゴ沢～ナイアガラ滝～稜線～赤岳鉱泉～赤岳山荘

地形図 八ヶ岳西部

メンバー 吉澤(L)、福永、佐藤

